

京都府庁 旧本館



「旧議場」。1階が議員席、2階の回廊は傍聴席になっている



正面大階段。精緻な彫刻が施された大理石製の手すりが美しい

西 洋近世の大邸宅のような威容を誇る京都府庁旧本館。昭和46年（1971年）まで府庁本館として活用され、創建時の姿をとどめる日本最古の官公庁建物だ。

この建物の建設が議会で承認されたのは、明治33年（1900年）。当時は地方行政の骨格も定まり、行政事務の拡大や役人数の増加に対応できる建物であることと、それまで庁舎と別だった議事堂（議場）を併設することが求められた。同時に外観も、正統的な西洋建築の意匠が要求されたという。完成は明治37年。設計を担当したのは、同じ京都の武徳殿（現・京都市武

道センター）や京都ハリストス正教会聖堂の設計で知られる松室重光である。建築の基本モチーフは、14・16世紀にかけてイタリアを中心広まった建築様式であるルネサンス様式。建物は、屋根を中心として左右両翼に対称に張り出した形となっている。

一部地下室付の煉瓦造2階建て、屋根は天然スレート（天然の石を使った屋根材）葺き。写真では木に隠れているが、建物の正面に車寄せとバルコニーが、背面に議場が配置されている。正面入口では、精緻な彫刻が施された大理石製の手すりが美しい大階段が来客を迎え入れる。

内部でまず印象的なのは、庁舎の間であり、公式行事や式典が行なわれた「正庁」だ。天井は和風建築でも格式の高い折上小組格天井で、さらにその中心には漆喰飾りが施されている。

建物の背面にある「旧議場」は、平成28年（2016年）に建設当初の姿に修復された。シャンデリアやカーテンも職人の手仕事で復元されている。24人の知事が使用した「旧知事室」は、2階南東角に位置する。デザイン性の高い家具調度や暖炉などは、当時のものがそのまま展示されている。平成16年に、国の重要文化財に指定されている。

67年にわたり24人の知事が使用した
「旧知事室」



かつて式典や公式行事が行なわれていた「正庁」

DATA

名 称 京都府庁 旧本館
所在地 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
完 成 明治37年 設計者 松室重光

